

国 語

注 意

1. 問題は全部で26ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 日本文学科受験者は問題四も解答すること。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
7. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	<input checked="" type="radio"/>	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
---	----------------------------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり、折り曲げたりしないこと。

— 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

物理学の発想の代表的なものが粒子主義¹と数量主義です。生物多様性の見方に対するそれらの影響はジンダイ^アですので、まず、粒子主義について見ていきましょう。

粒子主義は物理学や化学において、そして生物学においても勝利を収めました。自然科学だけではありません。社会科学・人文科学においても粒子主義が基本になっています。²経済学では、個人は合理的なふるまいをするものと見なします。つまり個人には個性など無く、同じ状況なら皆同じように合理的に行動するものだと思なし、そういう個人が市場において互いに何らの制約も受けずに自由にふるまっていると、見えざる神の手によってすべてがうまくいくと考えるわけです。市場を空間、個人を分子に置き換えれば、これは空間を自由に飛び回っている分子のイメージにそっくりでしょう。

³ 社会契約説に基づく社会というものも、全く同じイメージです。社会は自己の幸福を追求している独立した個人からできており、個人のふるまいは自由なのですが、衝突した時にどうするかはルールだけは、自分の意志であらかじめ社会と契約を結んで決めておくとするのが社会契約説です。近代では自我の確立が重要だと強調されますが、これはまさに他とは明確に区別され、外部のものとの影響を受けずに独立した粒子的自己の確立を目指していると言えるでしょう。社会とはこのような粒子的個人の集合体とみなされています。ちなみに個人は英語で individual。is (否定 is a) + divide (分ける is tom) ですから、まさに個人はアトム、原子なのです。われわれ現代人は粒子的な私観^{わたくし}、人間観、社会観、自然観を持っています。だからこそ A 遺伝子説という粒子主義の権化のような思想がもてはやされるのでしよう。

粒子主義においては、世界の基本は粒子という実体です(実体とは他のものとは独立してそれ自体で存在し、変化しないものこと)。実生活のレベルでは私という粒子がすべての基本となります。これは分かりやすい考え方ですよ。この私が一番大切ですし、私という個体はまわりからはつきりと区別されるかちつとまとまった体をもった実在物であり、まさに粒子的です。

粒子主義における「粒子的」とは、①不滅、②不変、③明確な境界、という三つの性質が挙げられるでしょう。不変とはみずか

ら変化はしないし、他と相互作用しても自身は決して変わらないことです。明確な境界をもつとは、外部とははっきりと区別され、そのものはきちんとしてとまってギョウシユウしているということです。

以上の三点は、そのまま私という個体に当てはまるわけではないのですが、I 当てはめてしまっているのが粒子的私観の現実です。

個体には、性質①の「不滅」は成り立ちません。②の「不変」も厳密に言えばだめです。同じ状態ですつと続くということなら、不老不死でなければなりません。そうはなれないことは皆が知っています。そこで粒子的私観では、なるべく老いや死は見ないように、見えないようにします。理想の私は不老不死であり、⁴老いや死は克服すべきものなのです。性質③の「明確な境界」は個体の性質そのものですから成り立つのは当然という気がしますが、⁵はたしてそうでしょうか。

⁵生物の特徴の一つに開放系ということがあります。個体はエネルギーも物質も外界から取り込み、またこれらを熱や排泄物として外界に放出します。物もエネルギーも絶えず出入りしているのです。ここで食物を取り込む場合を考えてみましょう。リスやハムスターは頬袋の中に餌を入れて運びます。頬袋の中の餌は、II リスの一部と考えていいでしょう。では、われ

われが家で食べようとリンゴを手を持って歩いていたら、リンゴは私の一部でしょうか。もっと言えば、口腔や、胃や腸という消化管は、消化するという役目の他に、食物を一時蓄えておく機能もち、消化管の内部は外が体の内側に入り込んだものとも見ることができずから、リンゴを食べて胃に収めても、まだそれは私の一部だとは言えず、リンゴを消化吸収してはじめて私の一部になるとも考えられます。とすると、私という個体の境界は外から見える皮膚なのでしょうか。消化管の壁なのでしょうか。同じ疑問は、酸素を取り入れる肺や、尿を排泄する腎臓においても起こります。

こんなふうに細かく見ていくと、個体がしつかりした境界をもつかどうか、いささか怪しくなってくるのですが、〈私〉ということになると、III 怪しさが増します。普通は「個体Ⅱ私」と考えてしまうのですが、延長された表現型も私だというのが本書の立場であり、この立場をとると〈私〉の境目はきわめて曖昧模糊としてきます。

ここでご自身のことを考えてみて下さい。まわりの人にあなたはこういう人物だとイメージを与えているのは、体や思考、つ

まり個体としての特徴ばかりではありません。持ち物、家族、付き合いのある人たち、家系、学歴、過去の業績等々、物であり人間関係であれ、さまざまなものが総合されてあなたのイメージが作り上げられています。そしてじつは自分自身もそのようなイメージをもとに「私とはこんなものだ」と思い込んでいるのではないのでしょうか。私というものから地位や業績や愛用の服や家などのすべてを取り除いて素っ裸にしたら、それでも私は私と思えるのでしょうか。

環境だつてそうです。環境はその中で生活して慣れ親しんでいるものですが、それ以上に〈私〉です。環境が〈私〉をつくりまです。そして環境は運命共同体です。生物にとつて、その生物の住んでいる環境が無くなれば、その生物は生きていけないのです。こういうものこそ〈私〉の大きな一部でしょう。

もちろん、すべてのものが同じ「〈私〉度」をもつわけではありません。子は〈私〉度ほぼ一〇〇パーセントですが、関わり具合により、〈私〉度は変わり、かなり縁の薄いものまで、〈私〉の裾野は個体を越えて大きく広がっています。〈私〉は身のまわりに延長しており、思うほどには境界がはっきりしてはいないものでしょう。そして、まわりをどう取り込むかによって、〈私〉自身が変わっていきます。そういうものが現実の〈私〉だと思ふのです。でも、こんなふうには普通考えません。それは現代人が粒子的私観に支配されており、確固として外部から区別されるこの個体のみを私だと考え、不変の私が存在すると思ひ込んでいますからです。

それにまわりも〈私〉だなどとは思わない方が、楽といえば楽なのです。現実には子にもパートナーにも不満があるでしょう。もつといい家に引越したいとも思うでしょう。そういう理想とかけはなれた現実が私ではないとして、私から切り離して考えられるところが、粒子的私観の助かることです。まわりも〈私〉だなどと言つてしまえば、〈私〉という現実は、ずいぶんとしょぼくしたものになつてしまいます。粒子的私観は理想主義なのです。

結局、粒子的な私とは概念としての私だと思ふのです。そもそも粒子とは概念(アイデア)です。概念とは理想のものとして頭に描いたものです。となるとどうしても私になりたいと思ふものを私だと思ひ込みたくります。そして、そういう理想の私を実現していない現実が、私が悪いわけではなくまわりが悪いのだと、まわりに責任を押しつけてしまいます。まわりのことに対

して無責任になりがちで、生物多様性をはじめとした環境問題に責任をもって取り組む姿勢が生まれにくくなるでしょう。ここが粒子的私観の問題点の一つです。

粒子的な私においては、自分自身は変わらない、つまり様なものですから、一様性に価値を置き、多様性の価値は低くなってしまいます。もちろん⁷粒子的私も多様性を口にはしますが、そこでは自分に役立つもののメニューの多様さだけが興味の対象となります。ここもきわめて問題なのです。

仏教では、「私があるのなら、それは私の思い通りになるはずのものだし、また、

IV

私と共にあるはずだ。でも現実

には、自分自身は自分の思い通りにふるまえないし、死んでしまうのだからずっと共にあることもない。だからそもそも私などというものは無く、私とは頭が作りだした妄想なのだ」と説きます。御説ごもつともです。しかし粒子的私観が確立している現代人に対して「私は無い、無我だ」などと言っても、妄言にしか聞こえません。そこで「私は無い」などにもべもないことは言わずに、私はあるのだが、私を概念としてではなく現実に近い捉え、苦労して育てている子どもも〈私〉、相互作用子として取り込んでいる相手も〈私〉と、〈私〉の範囲を広く捉えるように提案したいのです。範囲を広げれば、V 〈私〉そのものが多

様な要素を含むことになり、多様性に価値を置かざるを得なくなりません。粒子的私へのこだわりを捨てれば、「私は無い」とも「環境は私だ」とも、見ることができるようになるのです。環境が〈私〉だとすれば、多様な生物たちのつくり上げている環境の⁸問題は、まさに〈私〉自身の問題。それは好きだから守る、興味が無いから考えないというレベルの話ではなくなってきました。

(本川達雄『生物多様性』による)

問一 傍線部1「粒子主義」とはどのような考え方か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

1。

- ① 世界は、他からの影響を自分の意志であらかじめ拒絶した粒子的個人の集合体から成り立っている、とする考え。
- ② 世界は、他との関係や影響を受け容れつつも独自性を保とうとする粒子という存在で成り立っている、とする考え。
- ③ 世界は、他とさまざまな契約を結ぶことによって独立を保とうとする粒子という存在で成り立っている、とする考え。
- ④ 世界は、他と明確に区別され、他からの影響を受けることのない独立した存在である粒子で成り立っている、とする考え。
- ⑤ 世界は、他の存在を自分の役に立つ時だけ取り込むが、それ以外は排除する存在である粒子で成り立っている、とする考え。

問二 傍線部2「経済学では、個人は合理的なふるまいをする」とあるが、ここでいわれている「合理的なふるまい」とはどのようなことか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

2。

- ① 神という存在は、人の判断を越えた理屈によって、人の経済活動をコントロールしている、ということ。
- ② 人々は神の意志を無視して、あくまでも科学的な合理性に従うことで最適なふるまいをする、ということ。
- ③ 状況が同じなら、個々の人々は市場全体の相互関係において皆同じように最適なふるまいをする、ということ。
- ④ 経済学は、研究者が他からまったく影響を受けることなく、自由に行うことができる学問である、ということ。
- ⑤ 市場というものは、空間を自由に飛び回っている分子のように、何らの制約も受けずに成り立っている、ということ。

問三 傍線部3「社会契約説に基づく社会」とあるが、これはどのような「社会」か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **3**。

- ① 独立した個人が、人との関係ではなく、神との契約によって生かされているという社会。
- ② 自分の意志を常に主張し、他にうち勝つことで自分に有利な契約を結ぶという競争的な社会。
- ③ 自由なふるまいをする独立した個人同士が衝突した場合に、どうするかがあらかじめ定められている社会。
- ④ 個人と個人が細部にいたるまで契約関係によって結ばれ、それによって規範が保たれているという社会。
- ⑤ 自我の確立の重要性を認識しつつも、他と衝突した時には、かならず他に譲歩するということを前提としている社会。

問四 空欄 **A** に当てはまる最適な語を次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **4**。

- ① 画一的
- ② 社会的
- ③ 一時的
- ④ 運命的
- ⑤ 利己的

問五 傍線部4「老いや死は克服すべきものなのです」とあるが、どうしてこのように考えなければならないのか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **5**。

- ① 粒子的私観においては、〈私〉は不変でなければならぬため。
- ② 〈私〉という存在はかけがえないものであり、永遠の命を望むため。
- ③ 人は分子から成り立っており、それが破壊されることは宇宙の消滅を意味するため。
- ④ 個体というものははっきりした境界をもたないもので、完全にこの世から消滅することはないため。
- ⑤ 仏教においては〈私〉などというものは存在しないとされており、「老い」や「死」はあり得ないため。

問六 傍線部5「生物の特徴の一つに開放系ということがあります」とあるが、「開放系」とは、ここではどのようなことを言っているのか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 6。

- ① 生物はどのような時も他の生物と関わりをもつて生きている、ということ。
- ② 生物は個体のみで存在しているのではなく、外界とのやり取りを常にしている、ということ。
- ③ 生物の自己認識は自分のみによるものではなく、他からの見方に影響されている、ということ。
- ④ 生物の消化管というものは常に外界に接しており、いつでも離脱することができる、ということ。
- ⑤ 生物にとって食べ物というものは自分だけのものではなく、他と共有しているものでもある、ということ。

問七 傍線部6「粒子的私観は理想主義なのです」とあるが、どのような意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 7。

- ① 「粒子的私観」とは、〈私〉を実際には存在しないものと信じることにより、仏のような理想的な存在になることを目指す主義である、ということ。
- ② 「粒子的私観」とは、〈私〉を他からの影響を受けつつも、揺るぎない個体だと認識し、理想的な生き方を追求すべきだと主張する主義である、ということ。
- ③ 「粒子的私観」とは、〈私〉という存在が神によって作られたものであり、環境などをも取り込む万能のものであると認識しようとする主義である、ということ。
- ④ 「粒子的私観」とは、他から影響を受けない存在として、都合の悪いものを排除し、自分のためだけに理想的な〈私〉を追究しようとする主義である、ということ。
- ⑤ 「粒子的私観」とは、〈私〉という存在が不滅、不変なものであるかどうかに関わらず、生物として合理的、理想的に作られていると認識しようとする主義である、ということ。

問八 傍線部7「粒子的私も多様性を口にはしませんが、それに対し、筆者の必要だとする「多様性」とはどのようなものか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 8。

- ① 〈私〉が個性を発揮することで、周辺に生み出されていく現象の多様性。
- ② 〈私〉という存在を維持するために必要な、個体の外界に存在する要素の多様性。
- ③ 〈私〉を「無我」として認識した時に、かえって〈私〉が持ち得るであろう多様性。
- ④ 〈私〉が生きていく楽しみを作り出すものとして、〈私〉の身近にあつてほしい事物の多様性。
- ⑤ 〈私〉の存在が危機に陥った時に、さまざまな角度から助けられることを期待できるように多様な多様性。

問九 傍線部8「環境の問題は、まさに〈私〉自身の問題」とあるが、どうしてこのように考えられるのか。その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 9。

- ① 「環境」とは〈私〉という存在に含まれる重要な要素であり、〈私〉の生存に必須のものであるから。
- ② 「環境」とは〈私〉が生存することで、生み出されたものであり、〈私〉と一体のものであるから。
- ③ 「環境」とは〈私〉の作りだした妄想であり、それを克服して自我を形成することが望まれることであるから。
- ④ 「環境」とは〈私〉を外側からしぼるものであつて、そのようなものは〈私〉にとつて忌避すべきものであるから。
- ⑤ 「環境」とは〈私〉の相互作用子としての相手のことだが、その相手と良好な関係を保つことはむずかしいことであるか

ら。

問十 空欄

I

空欄

V

に当てはまる言葉の組み合わせとして最適なものを次の①～⑤から選び、その記号を

マークせよ。解答欄番号は 10。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-------|----|-------|-----|-------|----|-------|---|-------|
| ① | I | さらに | II | どうしても | III | たぶん | IV | なんとなく | V | ずっと |
| ② | I | どうしても | II | なんとなく | III | ずっと | IV | さらに | V | たぶん |
| ③ | I | たぶん | II | ずっと | III | さらに | IV | どうしても | V | なんとなく |
| ④ | I | ずっと | II | さらに | III | どうしても | IV | たぶん | V | なんとなく |
| ⑤ | I | なんとなく | II | たぶん | III | さらに | IV | ずっと | V | どうしても |

問十一 二重傍線部ア「ジндаイ」、イ「ギョウシユウ」を適切な漢字で記せ。解答用紙(その2)を使用。

二 次の文章は高倉院が巖島神社に赴いた時から、都へ戻るまでの記録である。これを読んで後の問に答えよ。

明け方になりしかば、社の鶏声々、明けぬと唱ふ。浪の音も高く瑞籬みづがきを洗ふは、潮満つるにや。白樂天の「潮声来入耳」¹と作りけるも、聞きて風情も巧みなりけるにやと、かたがた取り集めたる折から、所からの有様いひ尽しがたし。かくて明けにしかば、御所へ帰らせ給ふ。

二十八日、「このわたりの浦々を御覽すべし」とて、海人あまども潜かづきさせ給ふ。唐の縹はなだの狩の御直衣、唐綾の白き御衣二、御大口たてまつらせ給ふ。御姿2いみじうなまめかしく美しう見えさせ給ふ。浦つたひて、さしまはして御覽す。まことに仙の洞もかくやと、竜宮ともこれをいふにやとおほゆる所々のみ多かり。海松布*みまるめなどもてまゐる。とばかり御覽じ廻りて、帰らせ給ふ。

明くる辰の時3にまた御宮廻りめぐありて、やがて御船にたてまつる。島の中にもおどろおどろしく騒ぎあひたり。内侍*みまはども汀に出でて、何となく日ごろのなごり、しのび思ひたる気色なり。「なごり多きよしの歌つかうまつれ」とありしかば、

たちかへりなごりも有*の浦なれば神もあはれをかくる白波

風も静かに、物のあはれも春深くなりける気色、思ひかけぬ島の上に、桜の散りがたになりたる見ゆ。いみじくをかしくおぼえしに、三月尽になりけり。「今日はいかで旅の泊まりとても、春を惜しまざらん」とて、人々文作る。もてなし興せさせ給ふべきにもあらず、何の映えもおほしめされず。理とぞ見たてまつる。

四月一日になりぬれば、今日は衣更などいふことぞかしと思ひやらる。まだ、陰りたれど、雨やみにたれば、舟ども湊みなとを出だしたりしかば、浦々泊まり泊まりうち過ぎつつ、やうやう都近くなる心地して、旅のなごりもおほえず、とくとくと過ぎさせ給ふ。

向への岸に色深き藤、松の緑に咲きかかりたるを御覽じて、「あれ取りにつかはせ」と仰せられしかば、庁官康貞端舟にて通りしを、召してとどめてつかはす。丘の上に登りて、松の枝にかけて持てまゐる。「心7ばせあり」と仰せられて、「そのよしの歌つかうまつれ」と仰せありしかば、

千歳へむ君がかざしの藤浪は松の枝にもかかるなりけり⁸

空晴れて日ざしあがる程に、我も我もと舟ども帆うちかけて、雲の波、煙の波を分けて走りあひたり。備前国内海通らせ給ふ。日入りがたに、児島に着かせ給ふ。

四日の晩、御船出ださる。夜舟漕ぐ声、まことにうら悲しげに聞こゆ。

五日、雨降りしかば、高砂の泊まりに着かせ給ふ。都人の下るにこそ、「何事か」と、上下⁹尋ねける。

申の時に福原¹⁰に着かせ給ふ。いま一日も都へとくと、上下心の中には思ひける。「福原の中御覽せん」とて、御輿にてここかしこ御幸あり。所のまま、作りたる所々、高麗人の配しけるも理とぞ見ゆる。荒田といふ頼盛^{よしみ}の家にて、笠懸・流鏑馬^{やぶさめ}などつかうまつらせて御覽ぜさす。日暮れて帰らせ給ふ。

八日、家の賞行^{*}はる。加階^{*}もたまはせけり。兼光^{かねみつ}の弁うけたまはりて仰せける。左少将資盛^{すけもり}、丹波の守清邦^{きよくに}ぞ加階しける。都近くなるまに、八幡山の見えしも、たのもしくうれしくぞおほゆる。「比叡^{ひゑ}の山見ゆる」など申し A ば、女房たちもたち騒ぎ見あひ給ふ。申の時に御車に召して、八条殿へ入らせ給ふ。二位殿のもとへ帰らせ給ふ。都のうちも珍しくぞおほしめさるる。

(高倉院嚴島御幸記)

(注)

* 大口 || 大口袴のこと。

* 海松布 || 海草の一つ。

* 内侍 || 嚴島神社の巫女。

* 有の浦 || 嚴島付近の歌枕。

* 端舟 || 本船の手助けをする小舟。

*笠懸・流鏑馬Ⅱ両者とも、馬に乗って矢を射る騎射の種類。

*家の賞Ⅱ高倉院に宿泊所を提供したことに對する褒美。

問一 傍線部Ⅰ「潮声来入耳」に返り点を一箇所つけよ。解答用紙(その2)を使用。

問二 傍線部Ⅱ「御姿」とあるが、だれの姿か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

11。

① 筆者

② 内侍

③ 海人

④ 白楽天

⑤ 高倉院

問三 傍線部Ⅲ「辰の時」とは何時頃のことか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

12。

① 午前三時から午前五時頃

② 午前五時から午前七時頃

③ 午前七時から午前九時頃

④ 午前九時から午前十一時頃

⑤ 午前十一時から午後一時頃

問四 傍線部4「やがて御船にたてまつる」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号

は 13。

- ① ようやく御船にお乗りになる。
- ② すぐに御船をさしむけられる。
- ③ そのまま御船にお乗りになる。
- ④ ゆっくりと御船を動かせられる。
- ⑤ いつのまにか御船をさしむけられている。

問五 傍線部5「何の映えもおほしめされず」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号

号は 14。

- ① まったくつまらないとお思いにならない。
- ② いささかもすばらしいとお思いにならない。
- ③ だれの作品かによつてすばらしいとお思いになる。
- ④ どのような点がすばらしいのかとお思いにならない。
- ⑤ どのような人であつてもすばらしいとお思いにならない。

問六 傍線部6「とくとくと」に漢字を当てるとして、最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

15。

- ① 得得と
- ② 徳徳と
- ③ 説く説くと
- ④ 疾く疾くと
- ⑤ 着く着くと

問七 傍線部7「心ばせあり」と仰せられて」とあるが、どのようなことに対して「心ばせあり」とおっしゃったのか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **16**。

- ① 藤を松の枝にかけて、持参したことに對して。
- ② 康貞が少しもいやがらずに、従ったことに對して。
- ③ 岸の藤の花を舟に乗ったまま取った妙技に對して。
- ④ 歌によむのにふさわしい藤の花を持ってきたことに對して。
- ⑤ 岸の藤の花を取るのに最適な人物をつかわしたことに對して。

問八 傍線部8「かかる」はある語の縁語であるが、それは何か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **17**。

- ① 浪
- ② 君
- ③ 松
- ④ 千歳
- ⑤ かざし

問九 傍線部9「上下」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **18**。

- ① 都に上る者も下る者も。
- ② 身分の高い者も低い者も。
- ③ 表にあらわれたことも心の内も。
- ④ 舟に乗っている者も岸にいる者も。
- ⑤ 舟の先端にいた者も後尾にいた者も。

問十 傍線部10「福原」は平家によって都とされたところであるが、この遷都の様子を描いている古典作品は何か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **19**。

- ① 徒然草
- ② 方丈記
- ③ 奥の細道
- ④ 源氏物語
- ⑤ 今昔物語集

問十一 空欄 **A** に助動詞「き」を活用させた語を入れよ。解答用紙(その2)を使用。

三 次の文章を読んで、後の間に答えよ。

今日ギリシアを脳裏に浮かべる人は、誰しも紺碧の空の下に広がるエーゲ海を思わずにはいられまい。すでに古代においてギリシアとはバルカン半島の先端に位置するギリシア本土と小アジアの一部のほか、クレタ島をはじめとする、エーゲ海に散らばる大小さまざまな島嶼部を含む世界を指していたのであった。¹ いうなればギリシアとは、陸地のみならずエーゲ海、後には地中海をも含む世界を意味していたのだと、言ってもよい。古代ギリシア人にとって、海はかれらの生きる世界を形成する不可欠かつきわめて重要な部分を形成するものであると同時に、ギリシア文明の発達とその拡大にとつても、決定的と言つてよいほど大きな役割を果たしたのであった。実際、エーゲ海、地中海抜きギリシア文明といったものは考えられない。海はギリシア文明そのものに深くかかわっており、多くの人々がギリシア人といえば海洋民族というイメージを抱いていたとしても、不思議ではない。

本来はオリエントの女神で、海とは関係のなかったはずの愛と美の女神アプロダイテが、ギリシアで変貌し、ヘシオドスによつて海から生まれたと伝えられていることは、ギリシア人と海とのかかわりを思わせ、² 海に生きる民としてのイメージを形成する役割を果たしているといえるであろう。また『イリアス』の主人公で、トロイア戦争最大の英雄アキレウスが、海の女神テティスを母として生まれたことも無視できない。

ギリシア人が海というものにどれほど深い愛着の念をいだき、自分たちと海との強いつながりを感じていたかということをも物語る名高いエピソードとして、しばしば挙げられるのが、クセノポンの『アナバシス』である。ペルシアのキュロス王子の反乱軍に加勢し、小アジアに遠征したクセノポン率いるギリシア人傭兵部隊が、キュロスの敗死後に退却を重ねた末、ようやく黒海の見える山に到達した折に、海を眼にした兵士たちが、「海だ！ 海だ！ (thalatta, thalatta)」と歓声を上げ、狂気乱舞したと、クセノポン自身が物語っている。ギリシア人たちは、海に A を見たのであった。

海とのかかわりについて言えば、ギリシア人はまた日本人に劣らず魚好きで「魚食」(ichthyophagos)の民族であつて、今日

われわれがヨーロッパ人に対していただく「肉食民族」というイメージと異なり、かれらは肉よりも魚を好んで食べ、ことにもタコは大好物であつて、金に糸目をつけずに高価なタコを食べ過ぎて、破産した男の話が伝わっているほどである。

しかし興味深いことに、さほどにまで海と深いかわりと愛着をもち、海に養われたといつてもよいほどのギリシア文明を築いたギリシア人は、元来は海を知らず、海とは無縁の民であつた。クレタ島を本拠にエーゲ文明(ミノア文明)を築いた民は、航海術に長けていて、ギリシア人よりもすでに何世紀も前からさまざまな航路を開拓し、エーゲ海は無縁のこと、西地中海まで航行し、さらにはエジプトへの航路まで切り開いていた。また、二〇〇〇年前にエーゲ海地中海を自由に航行して、海上貿易によつて繁栄しながら、やがて歴史の上から姿を消してしまつた謎の民フェニキア人が、まぎれもない海洋民族であつたのに対して、ギリシア人は元来海も船も知らず、ギリシアの地に侵入してからかなりの歳月を経た後に、必要に迫られてようやく海を「発見」し、おすおすと海上に乗り出して行つたのであつた。その地の先住民族とは異なり、ギリシア人は元来は海洋民族ではなく、その成長の過程でエーゲ海や地中海を征服し、航路を開拓して次第に海洋民族となつていつたのである。³

ギリシア人によるその⁴ような海の発見と征服の過程を反映しているのが、『オデュッセイア』にほかならない。トロイア戦争を主題とした『イリアス』が、陸上を舞台とする叙事詩であるのに対して、その後日譚であり、英雄オデュッセウスの一〇年に及ぶ海上放浪とさまざまな冒険を物語つたこの叙事詩は、ほとんどの場面が海上で展開する海洋冒険譚であつて、これを「海の叙事詩」と呼ぶことができるであらう。

ギリシア人が元来は海を知らない陸の民であつたことを物語るシヨウサのひとつは、「海」を意味する最も一般的なギリシア語である Thalatta, thalassa という単語が本来のギリシア語ではなく、非印欧語系の先住民族からの B 語だということにある(「海をあらわすギリシア語としては、ほかに pelagos, pontos, hals, hydor といった語があるが、ラテン語の mare に相当する、海をあらわす一般的な語は Thalatta である)。ギリシア人の先祖たちは海を知らない地に居住していて、アナトリア高原あたりから、バルカン半島の、後にギリシアと呼ばれる地に侵入してから初めて海を知つたものと考えられている。かれらは海の民であつた先住民から、海を意味する Thalatta という語を B したものであろう。

ギリシア人が本来は海を知らない陸の民であり、海よりはむしろ大地を重視する民族であったことは、前七世紀初頭の詩人ヘシオドスの叙事詩『神統記』からもうかがうことができる。神々の誕生とその系譜を物語ったこの作品の冒頭部では、天空や海に先立ってまずガイア(大地)が生じたとされており、そのガイアがポントス(海)を生んだと物語られているのである。ガイアすなわち大地は最も根源的な神格としての位置づけがなされている。これに対してポントスは二次的な存在にすぎない。

さらにはまた、ギリシア神話では海神とされるポセイドン(ラテン名ネプトゥヌス)にしても、その名称自体が、「大地の夫」*posis + da*を意味するものであって、「大地を有するもの」*gaiēochos*、「大地を揺する者」*enosichthonos*というエピソード(呼)を冠せられているところからして、元来は海神ではなく、大地を支配する神であったと推測されているのである。これらはいずれも、われわれが普通ギリシア人についていっている海の民、海洋民族というイメージとは異なり、その起源においてはギリシア人がむしろ陸の民であったことを示しているといえよう。つまりギリシア人は元来はミノア文明の担い手であった民やフェニキア人のような、海洋民族ではなかったのだが、ギリシアの地に侵入してから初めて海を知り、そこで先住民族に学んで、やがてかれら自身がエーゲ海から地中海にまで進出して、海の民としての性格を徐々に獲得していったわけである。

(沓掛良彦『人間とは何ぞ—酔翁東西古典詩話—』による)

問一 傍線部1「いかなればギリシアとは、陸地のみならず……世界を意味していたのだと、言ってもよい」とあるが、なぜか。

その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 20。

- ① 古代では、ギリシア本土に近い海も含めて「ギリシア」と称していたから。
- ② 古代ギリシア人は、エーゲ海、後に地中海を世界の果てと考えていたから。
- ③ 古代ギリシア人は、エーゲ海や地中海を生活の基盤として文明を築いたから。
- ④ 古代ギリシア人は、もっぱら海上で生活し、独特な海洋文明を創り上げたから。
- ⑤ 古代ギリシアは地中海の外側を、自分たちと対立するアジア世界と考えていたから。

問二 傍線部2「海に生きる民としてのイメージを形成する役割を果たしているといえるであろう」とあるが、なぜそういえるのか。その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **21**。

① ヘシオドスが作爲的に愛と美の海の女神を創造したことによって、ギリシア人たちは自分たちを海の民族と考え、結束することになったから。

② 愛と美の女神が海から誕生したとするギリシアの伝説は、ギリシア人が海を根源的なものと考えている民族というイメージを与えるから。

③ ギリシア人は最初から海の女神の信仰を持っており、愛と美の女神が海から生まれるという神話が作られたのも、ごく自然なことだから。

④ オリエントの大地の神を海の女神に変貌させることで、「海の民ギリシア人」のイメージをオリエントの人々に植え付けることに成功したから。

⑤ オリエントの女神信仰に対抗して、全く新しい愛と美の海の女神を創造したことは、ギリシア人が海を愛する民族であることを思わせるから。

問三 空欄

A

に当てはまる最適な語を、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **22**。

① 冥界

② 魔力

③ 天界

④ 異郷

⑤ 故郷

問四 傍線部3「次第に海洋民族となつていったのである」とあるが、その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 23。

- ① 本拠地を逐おわれたギリシア人が、放浪の果てに、海に活躍の場を発見するにいたった、ということ。
- ② 本来陸の民族であつたギリシア人が必要に迫られ、海で生きる技術を身に付けていった、ということ。
- ③ 元来海と無縁のギリシア人が、海洋民族との長期間の戦争によつて、海軍力を強めていった、ということ。
- ④ 元から海洋民族であつたギリシア人が、数多くの神話を創り出して、その自覚を高めていった、ということ。
- ⑤ 弱小であつたギリシア人がフェニキア人を支配下に置くことで、海の覇者になつていった、ということ。

問五 傍線部4「そのような海の発見と征服の過程を反映している」とあるが、『オデュッセイア』はどのような点でそれを反映しているのか。その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 24。

- ① 陸上での戦争の後の、ギリシア人の、長期にわたる海での苦難と冒険を物語っている点。
- ② トロイア戦争後に、ギリシア人が海を初めて見た驚きを、抒情的に歌い上げている点。
- ③ エーゲ海、地中海におけるギリシアの征服戦争の歴史を正確に記述している点。
- ④ ギリシア人の小アジア遠征の時の、海上での戦いを生き生きと物語っている点。
- ⑤ トロイア戦争後に、ギリシア人が航海術を身に付けてゆく過程を具体的に物語っている点。

問六 空欄 B に当てはまる最適な語を、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 25。

- ① 信用
- ② 悪用
- ③ 交用
- ④ 借用
- ⑤ 軍用

問七 傍線部5「大地を重視する民族」のここでの意味の説明として最適なものをおの①～⑤から選り、記号をマークせよ。解答

欄番号は 26。

- ① 力を尽くして大地を開拓する民族
- ② 勤勉で誠実な農耕民族
- ③ 大地の豊かな実りを神に捧げる民族
- ④ 天空への憧れよりも、現実を大切にする民族
- ⑤ 大地を最も根源的なものとおける民族

問八 この文章の内容と合っていないものを、次の①～⑤から一つ選り、記号をマークせよ。解答欄番号は 27。

- ① 古代ギリシア人は海に深い愛着の念をいだいていた。
- ② 古代ギリシア人は、肉よりも魚を好んだ。
- ③ ギリシア人は、他所からギリシアの地に侵入した。
- ④ ギリシア神話に登場するポセイドンは、本来海神である。
- ⑤ 「海」を意味する単語は、ギリシア語に元からあったものではない。

問九 二重傍線部「シウサ」を適切な漢字で記せ。解答用紙(その2)を使用。

四 次の文章は、平安時代末期の関白藤原忠通について記した、歴史物語『今鏡』の一節である。これを読んで後の問に答えよ。

1 真名も仮名も好もしく、今めかしき方さへ添ひてすぐれておはしましき。内裏の額ども、古きをば写し、失せたるをばさらに書かせ給ふとぞ承りし。院・宮の御堂、御所などの色紙形、いかばかりは多く書かせ給ひし。御願より始めて、寺々の額など数知らず書かせ給ひき。横川の花台院などいふ古き所の額も、迎へ講すすめける聖の申したる^{ひじり}とて、書かせ給へりとぞ、山の僧は申しし。

また、人の仁和寺とかより、額申し給はりたりければ書かせ給へりけるほどに、奥の夷の基衡とかいふが寺なりけりと聞かせ給ひて陸奥へ取り返しに遣はしたりけるを、返し奉らじとしけれども、妻の心賢くやありけむ、「奉らざらむは、しれごとなり」と諫めければ返し奉りけるに、御厩舎人とか遣はしたる御使の、心やたけかりけむ、三つに打ち割りてぞもて上りける。柱を睨みけむにも劣らぬ御使なるべし。夷までも靡き奉りけるにこそ。

また、何れの御願とかの絵に、飯室の僧正尊くおはすること描くとて、冷泉院の御太刀抜かせ給へるに、僧正逃げ給へる後に、とどまれる三衣笥の元にて、帝の物の怪打たせ給ひたる所の色紙形、「これは、え書かじ」とて文字も書かれで、まだに侍るなり。御手並びなく書かせ給へども、さやうの御用意、ありがたきことぞかし。

また幼くおはしましし時より、歌合など朝夕の大御遊にて、基俊、俊頼などいふ時の歌詠みどもに、人の名隠して判ぜさせなどせさせ給ふこと絶えざりけり。

御歌多く聞き侍りし中に、

わたの原漕ぎ出でて見れば久方の雲居にまがふ沖つ白波

など詠ませ給へる御歌は、人麿が「鳥隠れゆく舟をしぞ思ふ」など詠めるにも恥ぢずやあらむ、とぞ人は申し侍りし。

吉野山峰の桜や咲きぬらむふもとの里に匂ふ春風

など詠ませ給へるも、心も言葉も妙にして、金玉集などに撰びのせられたる歌のつらになむ聞え侍る。

唐の文作らせ給ふ事もかくぞありける。されば文の心ばへ知らせ給ふこと深くなむおはしましける。白河院にも三卷の詩撰びて奉り給ひ、基俊の君にも唐、大和のをかしき言の葉ども、撰び番はせさせ給ひけり。かやうのことども多くなむ侍る。また、作らせ給へる唐の言の葉ども、御集とて、唐の白氏の文集などの如くに、好む人もてあそぶとも承る。

かく才などもおはしまして、日記なども鏡を掛けておはしませば、左大弁為隆といひし宰相は、「日本はゆゆしく、てづつなる国かな。前の関白を一人にて、この大殿、花園の大殿二人、若き大臣のよく仕へぬべきを打替へつつ、公事も勤めさせで。この殿一人なれば、徒らに足引き入れてる給へるこそ、惜しけれ」とぞ、言はれけるとなむ聞え侍りし。

(注)

*色紙形 屏風や障子などに、方形の紙を貼るなどして詩歌を書いたもの。

*御願 国家安泰のために天皇の命で建立された寺である御願寺のこと。

*迎へ講 臨終の時に阿弥陀仏が迎えに来る様子を演じる法会。

*奥の夷の基衡 東北地方の豪族であった藤原基衡。毛越寺を再建した。

*御厩舎人 牛馬の世話をする、撰閑家の下級役人。

*柱を睨みけむ 趙国の使者藺相如から、強圧的に宝玉を奪おうとした秦王に対して、相如が自分の頭とともに宝玉を柱に打ちつけて砕こうとして、柱を睨んだという故事をさしている。

*三衣篋 僧の三種の袈裟を入れる箱。

*人麿 柿本人麿。飛鳥・奈良時代の歌人。平安時代には「歌聖」として尊ばれ、特に「ほのほのと明石の浦の朝霧に鳥隠れゆく舟をしぞ思ふ」(『古今和歌集』)の歌は名歌とされた。

*御集とて 忠通の歌集として。

*鏡を掛けておはしませば 明鏡を掛けて写すように、物事がよく分かっているので。

*てづつ〓やり方が下手なこと。

*前の関白〓忠通の父藤原忠実。

*この殿〓藤原忠実。

問一 傍線部1「真名」の意味を二字で記せ。解答用紙(その2)を使用。

問二 傍線部2「聞かせ給ひて」の主語は誰か。最適なもの次の①〜⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 28。

- ① 天皇
- ② 京都の寺々
- ③ 横川の花台院の僧
- ④ 仁和寺の依頼者
- ⑤ 忠通

問三 傍線部3「奉らざらむは、しれごとなり」とは、どのような意味か。最適なもの、次の①〜⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 29。

- ① 額をお返ししないのは、愚かなことです。
- ② 額を大切に扱わないのは、物知らずの行いです。
- ③ 心を奉り忠誠を誓うのが、智者の振る舞いです。
- ④ 御礼の品を献上しないのは、無礼なことです。
- ⑤ これを機会に、忠通様の家臣となるのがよいでしょう。

問四 傍線部4「心やたけかりけむ」とは、どのような意味か。その説明として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **30**。

- ① 心が頑固であったのだろうか。
- ② 心が真直ぐであったのだろうか。
- ③ 心が剛毅であったのだろうか。
- ④ 心が粗野であったのだろうか。
- ⑤ 心が慎重であったのだろうか。

問五 傍線部5「靡き奉りけるにこそ」の後に省略されていることばを記せ。解答用紙(その2)を使用。

問六 傍線部6「これは、え書かじ」とあるが、なぜ忠通は色紙形に文字を書かなかったのか。その説明として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **31**。

- ① 怨霊調伏の絵であっても、これに関わることでその邪悪な力に触れることになるのを恐れたから。
- ② 物の怪に取り憑かれた冷泉天皇を描いた絵に文字を書くことは、天皇に対して畏れ多いと考えたから。
- ③ 怨霊調伏の絵は、普段文字を書き入れている風流な絵とはほど遠く、趣味に合わないと感じたから。
- ④ 物の怪を描いたおどろおどろしい絵にふさわしい詩歌を見つけることは、極めて難しいと考えたから。
- ⑤ 冷泉天皇を救った飯室の僧正の並外れた靈力に強い敬意を覚え、自分では能力不足と考えたから。

問七 傍線部7「さやうの御用意、ありがたきことぞかし」とは、どのような意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **32**。

① このように、十分に修練を積み、詩歌に関する深い知識ももって書くことは、尊敬に値することだ。

② このように、どのような内容の絵にも対応できる技量は、あまり例を見ないことであるよ。

③ このように、優れた道具もきちんと整えて文字を書くことは、見習いたいことであるよ。

④ このように、書だけでなく、すぐれた絵も描ける技量を持っていることは、例を見ないことだ。

⑤ このように、書くことが人に与える影響への細やかな配慮は、めったにないことであるよ。

問八 傍線部8「恥ぢずやあらむ」は、どのような意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

33。

① 面目ないと思うだろう。

② 劣ることはないだろう。

③ しりごみするかもしれないだろう。

④ まねたことを何とも思わないだろう。

⑤ 人麿が恥ぢずかしいと思うだろう。

問九 傍線部9「かく」の内容をさすことばを、本文中より十字以内で抜き出せ。解答用紙(その2)を使用。

問十 傍線部10「かやうのことも」とは、どのようなことか。その説明として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **34**。

- ① 書の才能を発揮して、漢詩集を美しく書写すること。
- ② 有名な漢詩集に多くの作品が収められること。
- ③ 文学の才能を天皇や院に認められ、出世すること。
- ④ さまざまな優れた詩歌集を編むこと。
- ⑤ 和歌・漢詩についての優れた批評をすること。

問十一 傍線部11「足引き入れてゐ給へる」とは、どのようなことを言っているか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **35**。

- ① 天皇に罰せられることを畏れ、行動を慎むこと。
- ② 権力者の仲間に加わり、保身に走ること。
- ③ 諸事に口出しはするが、何も行動しないこと。
- ④ 邸に引きこもって隠居のように過ごしていること。
- ⑤ 何も考えずに、政治の世界に踏み込むこと。

問十二 この文章の内容と合致するものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **36**。

- ① 忠通はどちらかという和歌よりも漢詩のほうを得意としていた。
- ② 忠通は書も和歌も漢詩も円熟し、若い人々の優れた指導者であった。
- ③ 忠通は書だけでなく、和歌や漢詩の制作にも優れた才能を発揮した。
- ④ 忠通は書に最も関心を持っており、そのために和歌や漢詩を深く学んだ。
- ⑤ 忠通は書・和歌・漢詩の教養を基礎に、政治家として大いに活躍した。

